

乳房再建のQ & A～知っておきたい10項目～

大阪市立総合医療センター形成外科 山口憲昭

16人に1人の女性が乳がんとなるため、積極的な検診が薦められるようになりました。そのため、早期発見、早期治療ができるようになり、がんを完全に治療することが夢ではなくなりました。一方で、従来までの大胸筋という胸の筋肉をすべて切除する手術から乳腺だけを取り除く手術や、場合によって乳房温存術（乳腺の部分切除）が行われるようになり、身体的負担は軽減しています。しかし乳房を失うことは、年齢を問わず大きな精神的ダメージとなります。また、たとえ『乳房温存手術』を受けることができた場合でも、『乳房温存』という言葉とは異なり、実際には大きく陥没したり、変形するなど形態が崩れてしまうこともあり、心の悩みを持ってられる方も数多くおられます。

そこで、我々形成外科の出番となります。かたちと機能を取り戻す手術を専門に行ってきた形成外科では、病気の治療はもちろんのこと、“病気に体も心も負けない、健康的な生活を送っていただく”ことを目的としています。つまり、『乳房再建手術』は、生活の質『Quality of Life (QOL)』の向上させるためのものだとお考えください。

具体的には、皮弁という自分の組織（背中やお腹などの皮膚、脂肪、筋肉）を用いて乳房の形を作る方法や、インプラントという人工物を利用して乳房を作る方法があります。それぞれの方法で手術時間や、費用、術後の管理の仕方、合併症が異なります。また再建手術を行うタイミングもそれぞれの病気具合や、心理的不安に応じて、がんをとるときに同時に再建手術を行う方法や、いったん悪いものを取り終わってしばらく様子を見てから再建手術を行う方法などがあります。

また乳房再建治療において、とても意義深い出来事がありました。厚生労働省中央社会保険医療協議会は2013年6月12日、乳房再建手術に使用するインプラント（人工乳房）の保険適用を承認し、7月1日からその適用が開始されました。これは、乳房再建治療における選択の幅が大いに広がったことを意味します。つまり、これまで美容外科などで、自費診療として行われてきた乳房インプラント手術ががん診療を行っている病院で施行できるということになります。（もちろん、どこでも行えるものではなく、施設認定制度、施行医師認定制度があり、当院および関係医師はその許可をいただいております。）

このように自信をもって社会に復帰していただく方法である乳房再建は、選択が多種多様となり、メリットが大きくなった一方で、いざ選択するとなると複雑でわかりにくくなっているというのも事実です。

そこで、今回は乳房再建に関して、よく耳にする質問10個を取り上げて、それぞれについて簡単にご説明をさせていただきます。これからあなたが、もしくはあなたのお知り合いの方が乳房再建手術をご検討されるときに、より具体的にイメージでき、前向きに検討ができるような情報を提供させていただきたいと思っております。